

平成21年2月 和歌山県議会定例会会議録 抜粋  
第7号（吉井和視議員の一般質問への知事答弁）

関西広域連合設立の目的の1つは、議員御指摘のとおり、国からの事務権限の移譲の受け皿としての役割を担うことでもあります。さらにもう1つ重要な目的は、東南海・南海地震に備えた広域防災対策、広域的な緊急医療連携、あるいは交通物流基盤の戦略的整備のように、県境を越えて、県域を越えて取り組む必要のある課題に関西が一丸となって取り組む体制をつくることであると考えております。

私は、関西の各地域が豊かな個性を持ち、それを連携させながらスケールを広げ、首都圏と異なる多様な価値が集積する日本のもう1つの中心核として関西圏が発展していくことが大事であり、それが本県が発展していくためにも不可欠であるというふうに考えております。したがって、積極的に議論に参画してまいりました。

その中身をちょっと御紹介いたしますと、私は議論のための議論、あるいは議論が躍るいつまでもというのはあんまり好ましくないと思います。したがって、抽象的なことを言っているよりも、できるものから、部分的でもいいからできるものから具体的にどんどん進めていこうではないかと、実はそういう主張を全体の検討会議の中ではいたしております。

ただ、例えば1つ1つの問題については、なかなかすぐに踏み切れないというような意見が各県ともあるようであります。そこで現在では、兵庫県知事が中心になって、その検討のスキームをきちんとつくるということからまず出発しようというような意見が主流になりまして、私もいつまでも自説ばかり言っておりますと、かえって全体を進ませないことになるというおそれもありますので、したがって小異を捨てて大同について協力をしているところでございます。

実は、その考え方のもとに、昨年9月議会では、一番早いケースでは本2月議会で、この議会で本県の広域連合の参加について御判断いただくように皆さんに御提案申し上げる可能性があるかと申し上げたんでございますが、残念ながら、そのような方法論というか検討のスキームみたいなことで発足するということについてもまだ反対もありまして、それでなかなかまとまっておりません。現時点では、広域連合の参加の是非を御判断いただくための材料が残念ながらございません。

したがって、情報提供はこれからも議会の皆さんにはどんどん申し上げていこうと、その都度の状況を御報告申し上げようと思っておりますけれども、議題としては今回は提出できませんでした。元気な関西圏をつくるという観点から、基本的には関西広域連合に参加したいと私は思っておりますので、早急に関西広域連合で処理する事務、組織、財政などの具体的な制度設計の案を取りまとめまして、広域連合設立の効果を、また県民の皆様、議会の皆様にお示しいたしまして御意見をいただき、さらに議論を深めてまいりたいと、そういうふうに考えております。